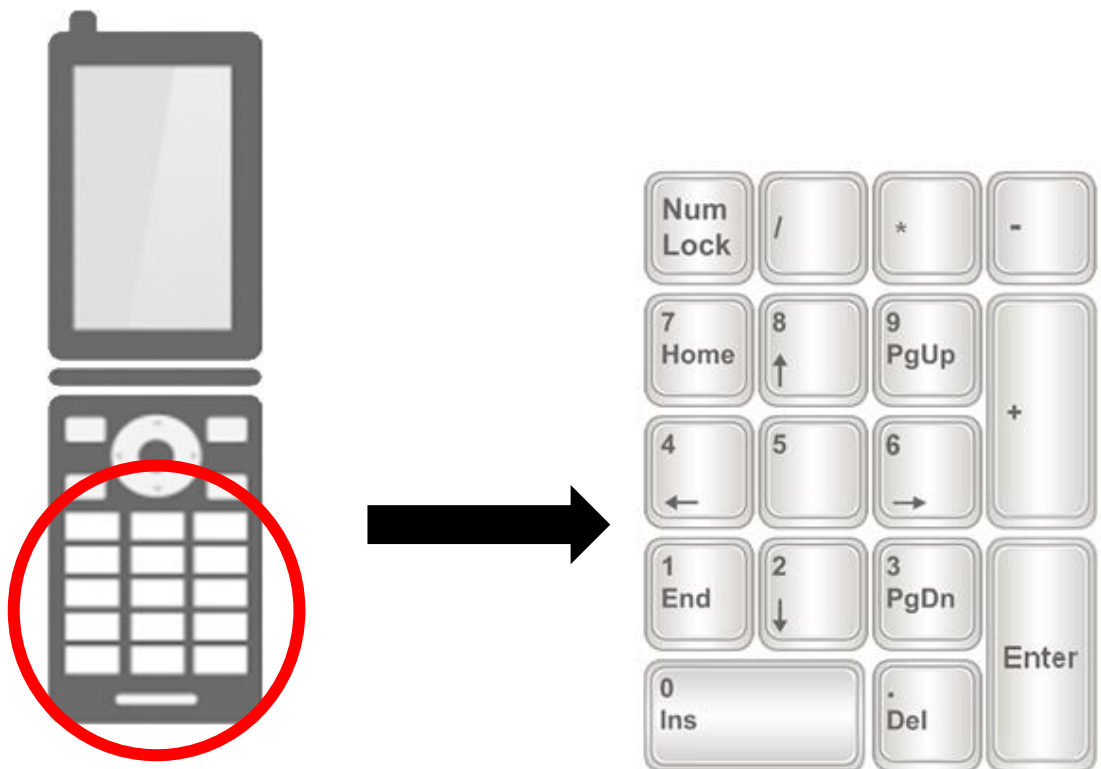


操作説明書

トグル入力方式

トグル入力方式は、キーボードのテンキーをガラパゴス・ケータイのトグル入力に見立てて文字入力を行う入力方式です。



トグル入力方式 操作方法 1

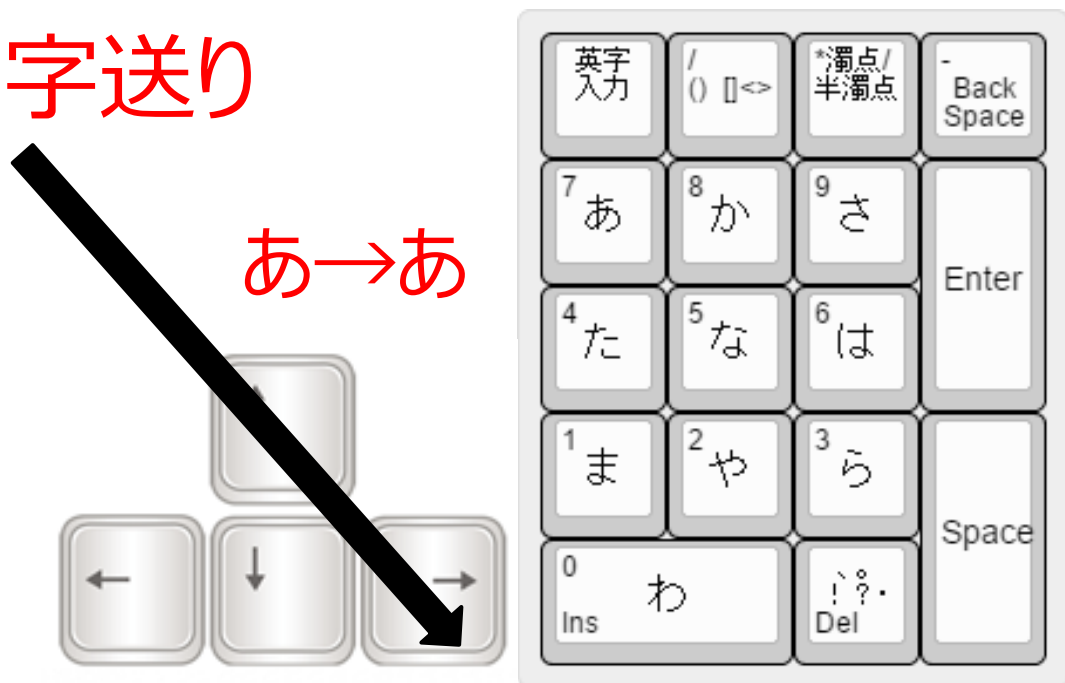
テンキーへの文字の割り当ては下の図のようになっています。

矢印キーはガラパゴス・ケータイにおける方向キーの役割、文字送りの機能が割り当てられており、“あ”行の文字を入力した直後に再び“あ”行の文字を入力する際に使用します。

濁点、半濁点の入力は*キーによって行い、直前に入力したひらがな 1 文字を濁音化、半濁音化します。

文字送り

あ→あ

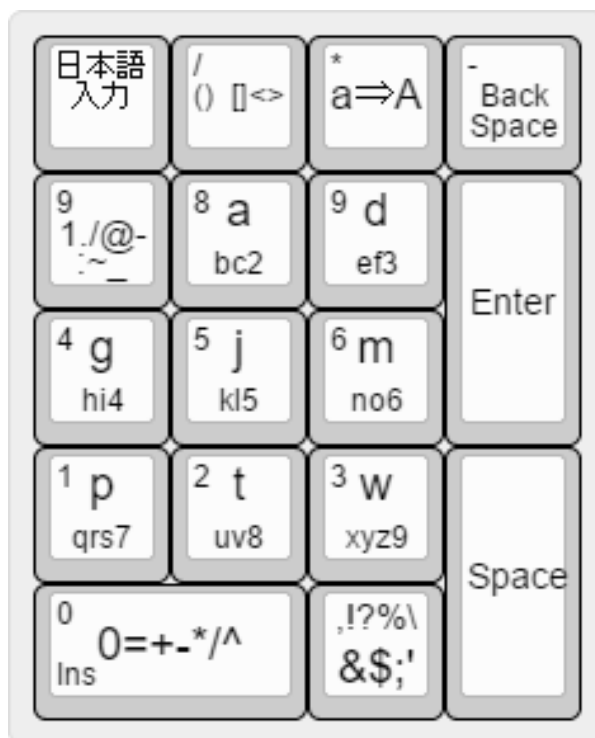


トグル入力方式 操作方法 2

NumLock キーを押すことにより入力モードが切り替わります。

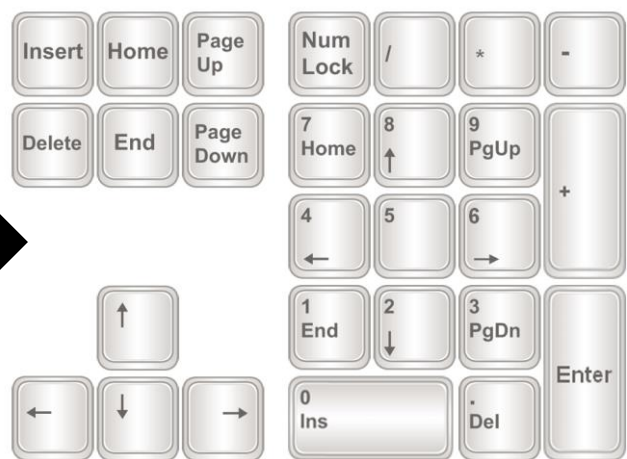
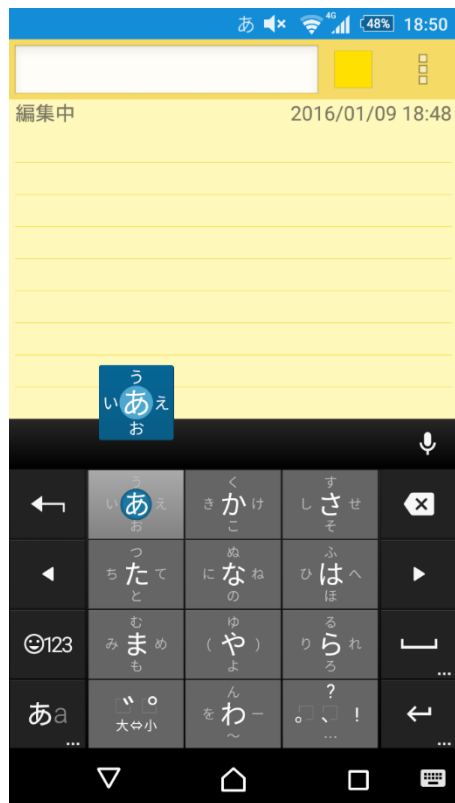
英字入力モードのキーの割り当ては下の図のようになっており、こちらもガラパゴス・ケータイの配置と同じようになっています。

また、英字入力モードでは*キーに大文字変換が割り当てられており、直前に入力したアルファベット 1 文字を大文字へと変換します。



フリック入力方式

フリック入力方式は、キーボードのテンキーと矢印キーでスマートフォンのフリック入力をイメージした文字入力を行う入力方式です。



フリック入力方式 操作方法 1

フリック入力方式では、テンキーと矢印キーの組み合わせによってフリック入力を再現します。矢印キーはスマートフォンのフリック入力における”フリック”つまり、指のスライドの役割を果たします。

例えば、テンキーで”あ行”が割り当てられている”7”のキーを押しながら、矢印キーの”←”を押すことによって、”い”が入力されるような仕組みとなっています。トグル入力方式と異なり、*キーには濁点、半濁点入力の他に直前に入力した文字を小文字化する機能も割り当てられています。

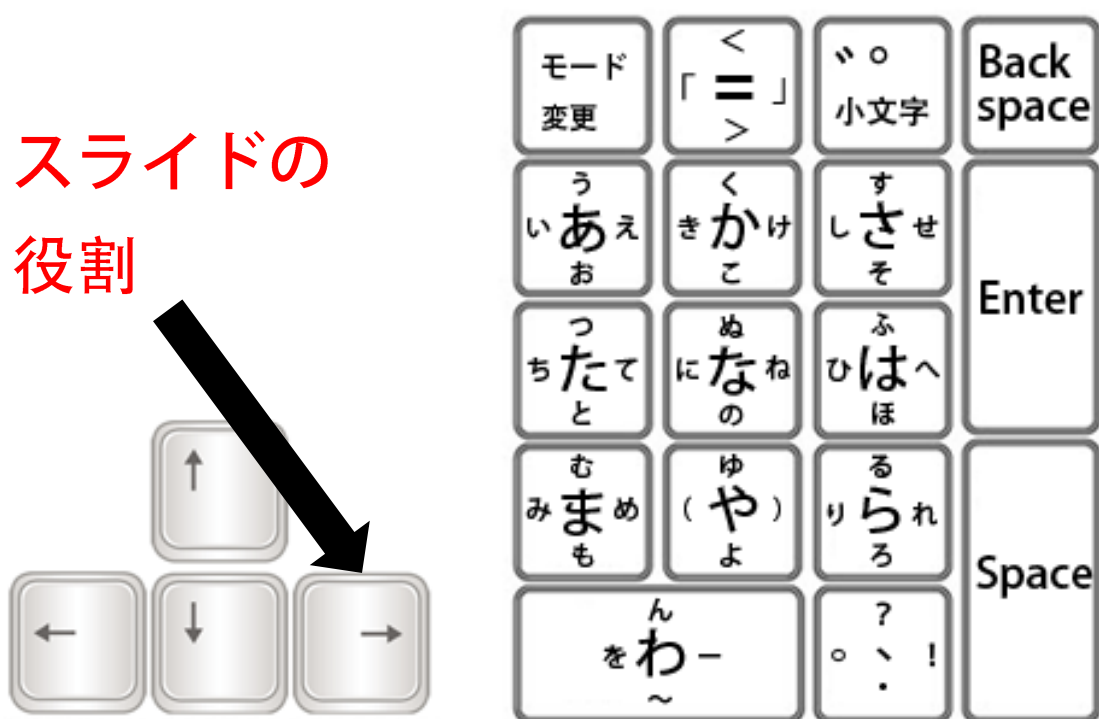
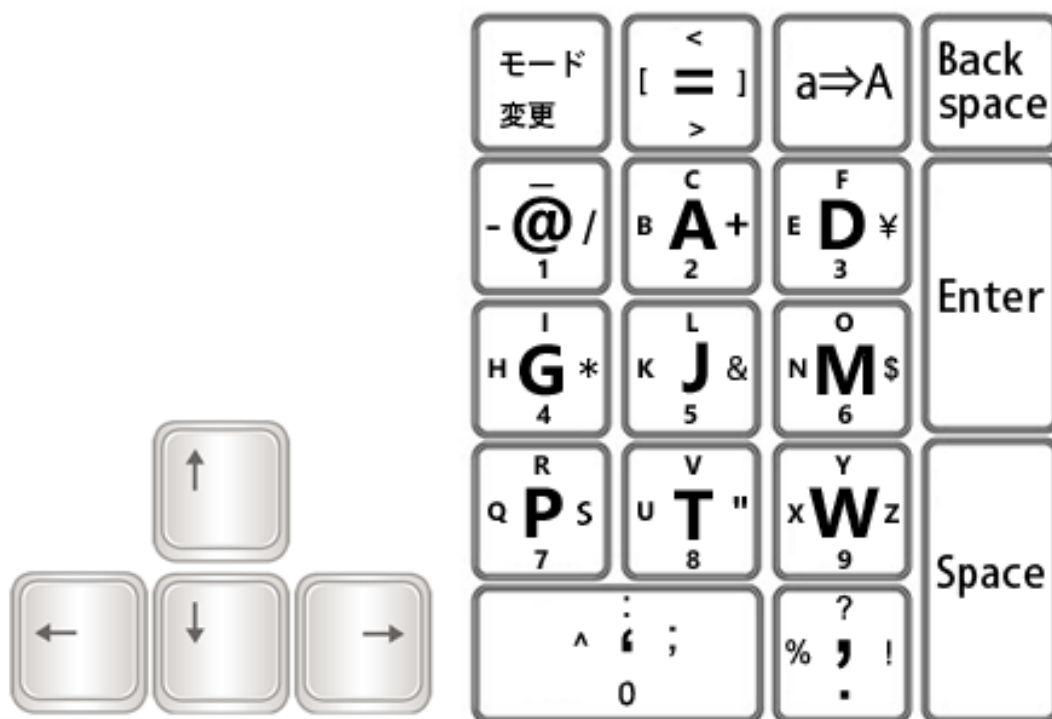


図 5 フリック キー配置 1

フリック入力方式 操作方法 2

トグル入力方式同様 NumLock キーを押すことによって入力モードが切り替わります。

英字入力モードのキーの割り当ては下の図のようになっており、英字入力と一部の記号の入力を行えます。

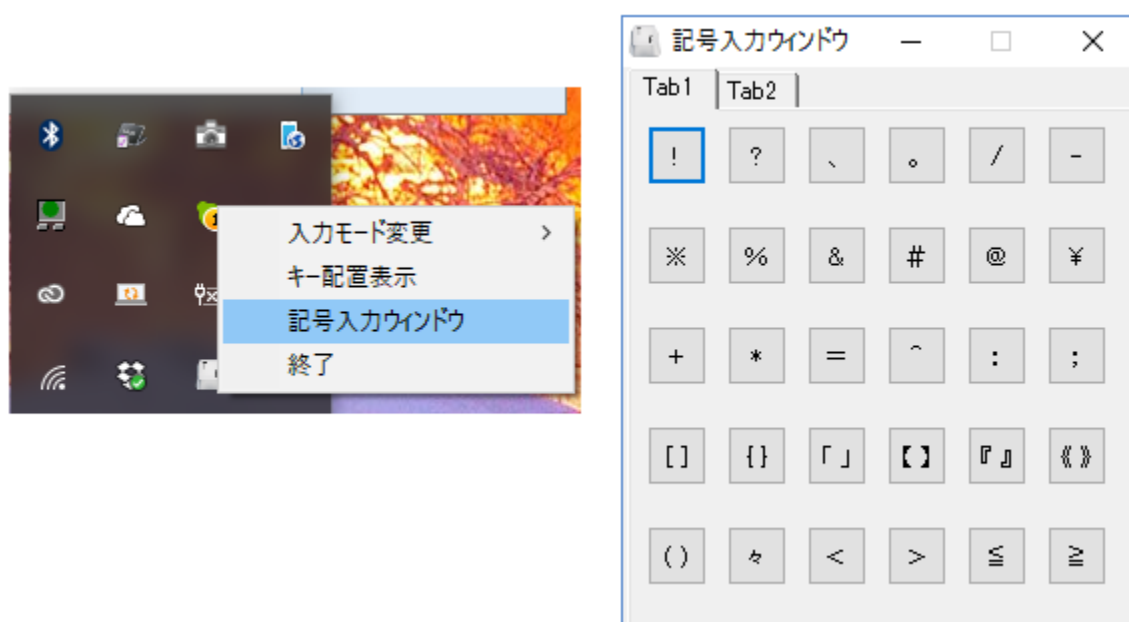


記号入力ウィンドウ

日常的に使用する記号や、通常のキーボードでも割り当てられていないが使う機会は少なくない記号の入力をスムーズに行うためのウィンドウです。

タスクメニューから記号入力ウィンドウを選択することによって、デスクトップ上に下図のウィンドウが表示されます。

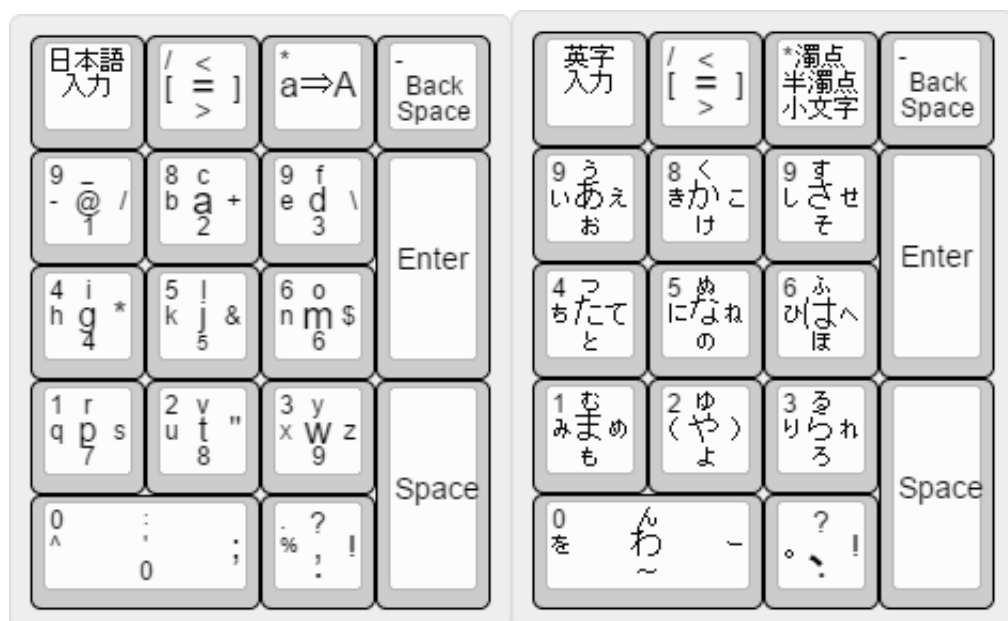
ウィンドウ上のボタンを押す事によって、直前まで使用していたウィンドウにボタンに記された記号が入力されます。



キー配置表示

キー配列表示は、実際のキーボードに印字されている文字と入力する文字が異なるので、入力に慣れるまでの補助としてテンキーへの文字の割当てを画像で表示するウィンドウです。

日本語入力/英語入力切り替えたタイミングで現在の日本語入力、英語入力の状態に合わせて画像が切り替わります。(ウィンドウを別のウィンドウにフォーカスした際などに日本語/英語入力に変更されても画像は自動で切り替わりません。)



その他の機能・注意点

- (1) 多重起動防止のため、テンキー入力.exe を実行中にテンキー入力.exe の実行を行うと、最初に実行されていたテンキー入力が終了し、新しくテンキー入力が行われます。
- (2) PageUp キーを押すことによって、テンキー入力の機能が中断され、通常のテンキーの入力として動作します。もう一度 PageUp キーを押すことによって再びテンキー入力の機能が再開します。
- (3) 一部のアプリケーション上では満足に操作を行えない場合があります
- (4) 記号入力ウィンドウは、一部のブラウザ上やツールバーでは正常に入力行えない場合があります。

表 1.記号入力ウィンドウのブラウザ上での動作

ブラウザ	相性	状態
Internet Explorer	×	(殆ど入力が行えない)
FireFox	△	(一部入力が正常に行えない)
GoogleChrome	○	(正常に入力が行える)
Opera	○	(正常に入力が行える)